

【歴史&宗教 No005-00】 神仏同座、大好きな視点

今に残る・今世に生きる神仏混淆とその果たす社会的役割を考察する。

「神仏同座・神仏混淆・神仏習合」に拘る理由は、多様性尊重社会と対等互啓（恵）精神の醸成、啓発に一翼を担いたいという思いがあるからである。多様性社会うんぬんと神仏が関係することについては腑に落ちないという点もあるが、「混淆・習合」（ごちゃまぜ）が肝である。私達は表面的な形式・様式の違いから神社と寺院、神様と仏様はまったく異なるものという理解が一般的であるが、よく考えれば、私達の心底の中は神仏が融合してその境界は無いのである。昨今、人間は思想信条の違いを殊更に際立たせることに汲々としているが、神仏の世界を学ぶと、この世、まだ捨てたものじゃないという感が甦る。

「生臭坊主やイカサマ神主やデグスケ牧師にゴロツキ祈祷師」と揶揄しているものの、このような真摯な取組みに接すると嬉しくなる。

《 目 次 》	図(表)番号	頁
【歴史&宗教 No005-01】 [神仏同座] 今世に歓迎する神仏習合	1～2	1～4
【歴史&宗教 No005-02】 [神仏同座] 全国大	3～13	5～13
【歴史&宗教 No005-03】 [神仏同座] 全国大／ つばきおおかみやしろ 椿大神社	14～15	14～15
【歴史&宗教 No005-04】 [神仏同座] 全国大／高野山	16～19	16～18
【歴史&宗教 No005-05】 [神仏同座] 山形県内	20～30	19～27
【歴史&宗教 No005-06】 [神仏同座] 異なる宗教団体の連携	31～36	28～32
【歴史&宗教 No005-07】 [神仏同座] 神仏同座を地で行く宮司	37～38	33～34
【歴史&宗教 No005-08】 [神仏同座] 子供達の神仏に向き合う感性	39	35～37
【歴史&宗教 No005-09】 [神仏同座] 僧（住職）が神社で結婚式	40	38
【歴史&宗教 No005-10】 [神仏同座] 「神・仏・キ」の融合実践者	41～42	39～40
【歴史&宗教 No005-11】 [神仏同座] 神々に御経奉納	43～44	41～42